

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てリターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「エチゴのイチゴ」

多くの県民は新潟弁の大特徴として、イとエの発音の曖昧さを挙げます。

とはいえ、一般には佐渡地方は比較的混同は少なく、主に上越・中越・下越に見られるといいますが（上越の一部は混同が少ないとの報告もあります）。

実際、新潟市の某商店街で「焼きエモ（芋）あります」という手書きの張り紙を目にしたことがあります。また、「チイ」という名前の人が、「実はチエだったのに、役所に届けるときチイになった」という話を知り合いからこっそり聞いたことがあります。

また、詳しくは書けないのですが、某団体の某集会で、必勝の鉢巻きキリリと締めた代表幹部が壇上で「我々〇〇業界は、この〇〇選に向けて、一致団結しなければならないのであります～!!」とマイクにむかって大声できっぱり宣言した際、「一致団結」の部分が、見事にイとエの逆転化現象になっていたことがありました。壇上にずらり居並ぶ恰幅の良い殿方集団、その並々ならぬ意気込みと団結ぶりがひしひしと伝わってきた決起大会でした。

では、なぜ、このような逆転化、あるいは曖昧化現象が起こるか？

県民はしょうがりだから大口開けて話さないからだとか、冬寒いから口がよく開かないなどの説も最もらしいのですが、新年早々物議を醸しそうなので今回は避けます、やめます、とばします。

「あら、私はイとエの発音はきちんとしていて

よ！新潟弁など話しませんことよ」という人でも、母音「アイウエオ」のイとエは口の開き方が似ているため混同と曖昧化が起こるようです。

たとえば、「痛い！（いたい）」が、とっさの時、「いてえ」と発音されたり、「あっ、いけない」が「あっ、いけね」となったりすることは、なにも新潟県民に限った事ではありません。しかも、江戸っ子さえも「いばる」を「なに、えばってんだい」と発音することがあります。全国的にも、東北地方、北関東地方、北陸地方、出雲地方、九州の一部にも立派な（？）混同や曖昧化がみられます。

そうは言っても、バリバリの標準語を話す人からは、「新潟人はイとエが反対」と指摘されることがあるようです。あら、私ですか？もちろんきっちりイとエを発音しています、と言いつつも、新潟名物の海藻食品は、エゴかイゴかは未だにどちらが正しいか考えてしまうし、ブランド産物「えちご姫」のイチゴは、本当は「いちご姫」にも思えてくるし、排水溝は、イガワかエガワかほんとの名称ははっきりしないし、某学校法人は〇〇学園か〇〇学院か紛らわしいし、一期一会も越後一会に思えてくるしで、なにかとイとエを意識してしまいます。とはいえ、今年もエチゴのイロイロな話題を一期一会の精神でお届けいたしますので、よろしく願いいたします！

